

印旛普及だより

第 39 号

〒285-0026 佐倉市鍋木仲田町8-1 TEL: 043-483-1128 FAX: 043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行: 印旛農業事務所 改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

「気軽に導入できる」スマート農業で より良い経営管理を目指す!

11月26日栄町の「ふれあいプ
ラザさかえ」を会場に、水田に
おけるスマート農業研修会を開
催しました。

印旛地域の水田農業は、高齢
化による担い手への農地の集積
が進んでいます。そこで急激な
規模拡大による担い手の労働負
担を軽減し、経営を効率化する
手段として、スマート農業技術
の活用が期待されています。

本研修では、ほ場管理や経営
管理をするためのシステム、水
位センサー、ドローン等「気軽
に導入できる」スマート農業を
紹介しました。さらに本年度、
ほ場管理システム、水位セン
サーを試験導入した事例の紹介
や講師による「水稻の収量と品
質を向上させるスマート農業技

術の活用」についての講演を行
いました。

会場には約80名が来場し、
メーカーの展示ブースでは、活
発な情報交換が行われました。



研修会の様子

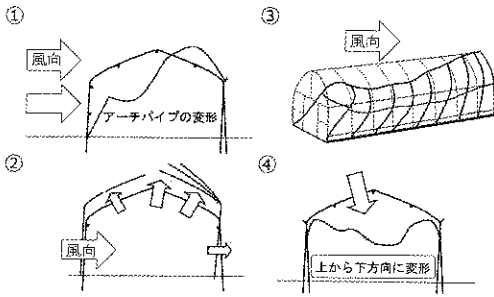
印旛農業事務所では、技術向
上とよりよい経営管理を目指す
ためのスマート農業技術等を紹
介することで、今後も農家の営
農を支援していきます。



展示ブースでの情報交換

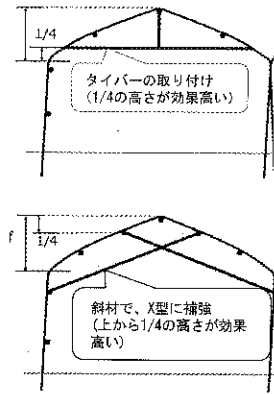
◆特集◆ 農業用ハウスの 風害対策について

台風15号等により、ビニールハウスやガラス温室に甚大な被害が発生しました。限られたコストの中で、効率よく補強を行う必要がありますが、ここではパイプハウスの被災のパターンとそれに応じた補強方法について「千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」の一部を抜粋して紹介します。



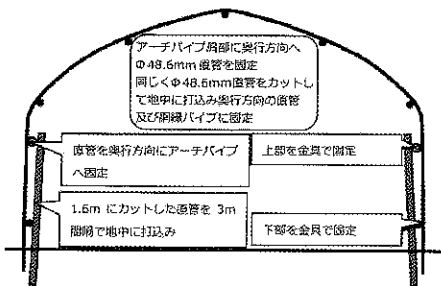
パイプハウスの被害の4つの特徴

1 風上側の肩部分から屋根にかけて押しつぶされた状態
タイバーやX型により肩部を補強します。



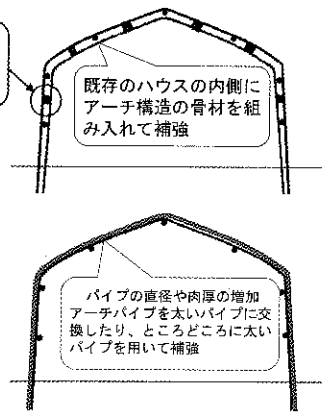
タイバーやX型による補強

横からの圧力が一点に集中しないよう、足場パイプを肩部に奥行き方向に取り付け、さらに1.6mにカットした直管を3m間隔で打ち込んで固定し、側面を補強します。



側面に足場パイプを設置

アーチの骨を数本おきに太いものに代えたり、ダブルアーチを組んだりします。

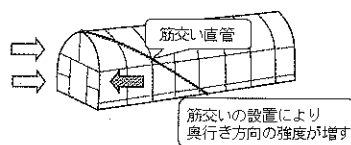


アーチの補強

2 下から吹き上がるようにパイプが変形

扉を点検し、被覆材のたるみや破れが無いことを確認して、風の吹き込みを防ぎます。また、スプリングやパッカーを用いて補強し、被覆材をしっかりと押さえます。さらに、基礎を強化し、浮き上がりを防止しましょう。

3 妻面から奥行き方向に倒壊
筋交いを設置します。ただし、横風には効果は期待できません。



筋交いの設置

4 真上から屋根が押しつぶされたように陥没

前述のアーチ構造の骨材の強化等がありますが、風上に防風ネットの設置等もあります。終わりに

詳細については、「千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」(千葉県ホームページ参照)を御覧ください。また、個別のハウスの状況や台風の進路等により想定される被害は様々ですので、専門業者ともよく相談してください。

水稲の斑点米カメムシの発生状況について

本年度は、千葉県全域で斑点米カメムシの被害が多く認められました。印旛地域では、殺虫剤が効きづらい大型カメムシ類、イネカメムシ(図1)の被害が顕著でした。

対策には、今までの防除方法を見直す必要があります。柱となる防除方法は2つです。

1つ目は畦畔の管理、2つ目は薬剤防除です。(図2)

(1) 畦畔の管理について

畦畔の草刈りは出穂2週間前までに終わらせましょう。その後の草刈りは、本田へのカメムシの侵入につながるため止めましょう。

(2) 薬剤防除について

適期に2回薬剤散布を行うことが非常に有効です。1回目は穂が出揃う時期、2回目は穂が傾きかけた乳熟期(出穂後10日

頃)です。

また散布する時期だけでなく薬剤の種類にも注意が必要です。イネカメムシは体が大きく薬剤が効きづらいため、カメムシに直接接触しない粒剤では効果が十分に発揮されません。液剤・粉剤等カメムシに直接散布する薬剤を選択しましょう。



図1 イネカメムシ(体長約13mm)

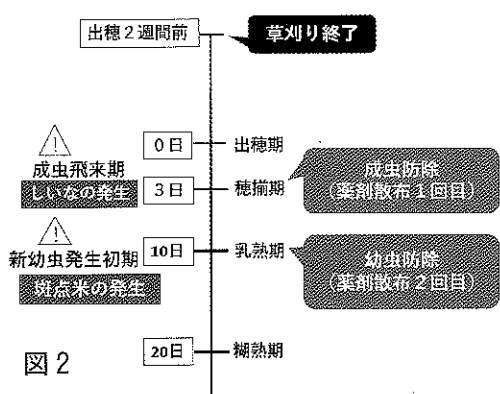


図2
出典：「防除ハンドブックシリーズ 稲の病害虫と雑草」
「千葉県フィールドノート 水稲の斑点米カメムシ類対策」

温暖化の影響？ ナシの発芽不良の発生

近年、印旛地域のニホンナシにおいて、一花そうあたりの花蕾が少なかったり、花梗が短くなる花がみられており、発芽不良と呼ばれる凍害の一種であると考えられています。

九州では10年ほど前から問題となっている現象です。被害が大きくなると、芽が枯死して発芽しなくなることもあり、生産上問題になります。ナシの花芽は、秋口から徐々に気温が下がっていくことに伴って、冬の寒さに耐えられるようになっていきます。温暖化によって秋季の気温が高くなると、花芽の耐凍性が十分に上がらないまま寒さにあたるため、冬季の低温に耐えられず、凍害を受けやすくなります。

農研機構と鹿児島県農業開発総合センターの研究で、秋冬季

に肥料やたい肥を散布することにより、耐凍性があがりにくくなることが明らかになっていきます。したがって、肥料やたい肥の散布を秋から春に変えることで、発芽不良の発生を少なくできるとされています。しかし、千葉県のナシ栽培で、肥料の散布時期を変更した場合の生育や収量への影響についての調査はこれからです。現在、千葉県農林総合研究センター果樹研究室が、農業事務所及び現地の生産者と協力し、春施肥に関する試験を計画しています。新しい知見が得られ次第、情報提供をしていきます。



発芽不良とみられる症状
('幸水'長果枝花芽2015年)

新しい農業士と指導農業士が認証されました

令和元年度農業士等認証式典が11月20日に千葉市で開催され、農業士4名、指導農業士2名が新たに認証されました。

〔農業士〕

菅原 啓介 氏（八街市）

露地野菜・雑穀・豆類

加工用ヤマトイモ、落花生、ソバ等を作付けし、積極的な設備投資による省力化を進めています。

市川 慎悟 氏（八街市）

露地野菜・雑穀・豆類

落花生、ソバ、根シヨウガ、長ネギ等を作付けし、耕作放棄地を解消しながら面積拡大を進めています。

木村 泰男 氏（富里市）

露地+施設野菜

スイカ・秋冬にんじん・春にんじん・抑制トマトを経営の主要产品としています。農協青年部

の部長を務めた他、現在は有害獣対策にも尽力しています。

鈴木 夏実 氏（栄町）

水稲+農産加工

多品種作付けにより作期分散を図り、年間を通して米販売を行っています。また、農産加工にも力を入れています。

〔指導農業士〕

小久保 五一郎 氏（印西市）

水稲専作

地元土地改良区の理事を務めています。地域の水稲栽培を任せ、年々経営面積を拡大させています。

清野 浩一 氏（富里市）

露地+施設野菜

みず菜とほうれんそうを主品目に、化学合成農薬の使用回数を抑えた生産を行っています。

農業経営体育成セミナーを通じた仲間づくり

印旛農業事務所では、地域で新しく就農した方々を対象に「農業経営体育成セミナー」を開催しています。3年間のカリキュラムで、月に1回程度の研修を行います。農業経営に必要な知識、技術を習得する他、仲間づくりの場となります。

講義だけでなく、先進農家や研修生相互に視察を行い、他の経営を学ぶことで、将来のビジョンを明確にしていきます。



セミナーで大田市場を視察

共済・収入保険制度について

近年、台風等による被害が多発し、共済・収入保険の重要性が増しています。そこで、変更点を含め両制度を紹介します。

1 園芸施設共済

風水害等で施設が損壊した際、共済金の支払いを受けられます。掛金の割引制度が始まり、例えば15aのハウスでは、小規模被害を対象外とすると最大70%、施設補強や集団加入でも更に割引になります。（農林水産省ホームページ引用）

2 収入保険制度

自然災害や鳥獣被害、価格下落など広範囲の収入減少を補填する制度です。令和2年1月からは受け取る保険金額を少なくし、安い掛金でも加入できます。経営安定のため両制度活用を検討ください。加入や制度の詳細は共済窓口にご相談ください。